

## 一 評論

### 【解答例】

- (一) (1) 陥没 (2) 輪郭 (3) 冒頭 (4) 培(って) (5) 渦中
- (二) 体験したことのない事態に対し思いを的確に表す言葉がない状態。(30字)
- (三) 体験したことがない事態への行き場のない思いに、詩歌によって区切りを与えてかたちにするため。(45字)
- (四) 手間暇かけて修得し完成させた既存の知識をあえて捨てることが、新たな経験を言葉にする可能性を生むこと。(50字)
- (五) 既存の体験では言葉が見つからない経験に対し、一旦修得した言葉を捨てて経験に身を任せることで新たに言葉を出現させるという、経験と言葉の関係を見直す詩的な作業が哲学にも必要であること。(90字)

### 【解説】

- (一) 基本。完答が望ましい。
- (二) 傍線部の具体的な言い換えを考える。「持って行き場のない」の言い換えと、「何を」持って行き場がないのかが答えられればよい。
- (三) (二)を踏まえ、詩歌の役割を一般化して答える。言葉にできない思いに詩歌は形を与えることができるからだ、という主旨でまとめる。
- (四) 既有知識を捨てることの意義を、これまでの問いや直後の自転車の例を元に考える。経験のないことを言葉にするためには、それまで持っている言葉を一度捨ててみる必要があるのである。
- (五) (二)～(四)を活用して、哲学における詩的な作業とはどのような作業かを答える。未曾有の体験に対し、詩は思いをかたちにすることができるが、哲学においても、未体験の事態に対し既存の言葉を一度捨てて経験を捉えなおすことで、新たな言葉を生むことができるのである。

## 二 小説

### 【解答例】

- (一) (1) 興ざめた (2) あとでもめないよう念を押す
- (二) 話を切り上げ、翔太に複雑な大人の事情が伝わるのを避けるため。(30字)
- (三) 両親と翔太との微妙な距離感を縮めず別れた方が、悲しみが深くならずむしろよいこと。(40字)
- (四) 自分の離婚が原因で、お互いもう会えないかもしれないと感じながら振る舞う両親と翔太の様子を見て、一層気まずくなったから。(59字)
- (五) 離婚のため、もう会えなくなるかもしれない幼い翔太が当初心配だったが、自身で悲しみを乗り越えようとする様子に、息子の成長と頼もしさを感じるようになった。(75字)

### 【解説】

- (一) 辞書的な意味を答えればよい。
- (二) 「早口」になったのは、翔太との会話を早く終わらせたかったからだということが答えられればよい。そうしたのは、自身の離婚をめぐり、なるべく翔太には面倒な話を聞かせたくなかったからだと考えられる。
- (三) 「微妙なよそよそしさ」が「解消できないまま」のほうがよいのは、両親と翔太を「淡々とお別れ」させることで、仮にもう会えなくなるとしても両者の心の傷は浅くてすむと「私」が考えたためである。
- (四) 気の抜けたビールの苦み、まずさを「気まずさ」という心情と結びつけて考えられるかがポイント。あとは両親と翔太の様子を説明すればよい。
- (五) (二)～(四)では、自身の離婚をめぐり、翔太のことが心配であれこれと気をもむ「私」が描かれているが、傍線部のある結末付近では、「私」の手を借りず一人で前に進もうとする翔太が描かれており、独り立ちしようとする頼もしい姿が印象づけられている。したがって、「心配」から「頼もしい」への変化という構図で全体をまとめる。

### 三 古文

#### 【解答例】

- (一) (1) 盛大に与えられたので  
(2) いっそうさびれてしまった
- (二) 狭い町屋とは異なり、広い馬場では絹糸を思い通りの長さまでよることができること。(39字)
- (三) 大勢の人が列をなして豊国に参詣し地震からの厄よけを願う様子。(30字)
- (四) これまでは多くの人が豊国に見向きもせず社殿も荒れ放題だったのが、地震よけに効果があると評判になると参拝者が殺到したから。(60字)
- (五) 地震よけになるという豊国にある草葉を家に持ち帰って御利益を受けるため。(35字)

#### 【解説】

- (一) (1) 「いかめし」(おごそかだ、盛大である)、「已然形+ば」(理由)の訳がポイント。  
(2) 「いとど」(いっそう)と、「さび」が「寂び」だと気づけるかがポイント。
- (二) 豊国の馬場が、町屋とは異なり、好きな長さだけ糸をよるだけの広さがあることを指摘する。
- (三) 「蟻の熊野まわり」は「蟻が列をなして続くのを熊野参りなどの人の列にたとえたもの。転じて、大人数がぞろぞろと進むことにいう」(『日本国語大辞典』)。辞書的な意味を知らなくとも、人々がこぞって豊国詣でをするようになったことは見やすい。あとは参詣の目的として、地震から守る神としての御利益を期待したことも指摘できればなおよい。
- (四) 傍線部直前に「今さら」という言葉が用いられていることから推測できるように、これまでは豊国神社を放置し、社殿を荒れ放題にさせていたのはなかったことにして、大地震で揺れなかったという話を耳にし、列をなして豊国詣でをする人々に対し、筆者は呆れているのである。
- (五) 豊国は地震から身を守ってくれるという話を受け、人々がそこに生えた草葉を持ち帰ったのだから、彼らは草葉を地震よけのお守りにしようとしたのである。

## 四 漢文

### 【解答例】

- (一) (1) やまひをもつてくすりをこはば (2) としまさにくれんとするに
- (二) (a) 未払いを問題にしなかった (b) まだ支払われていなかった
- (三) あなたがいなければ、私は今日に至るまで生きながらえることができなかった
- (四) 儒生の母が、薬をどのようにして手に入れたのかを尋ねるだろうということ。(35字)
- (五) 自分の病気を治し薬代の未払いも不問にしたお礼に、途絶えることなく美しい布を織ることで羅慶同一族の末永い繁栄を祈るため。(59字)

### 【解説】

- (一) (1) 直後の「必ず善品を与ふ」との対応を見た上で、傍線部が仮定表現であることを押さえる。  
(2) 「且」が再読文字であることがポイント。
- (二) (a) 「不問に付す」という慣用表現を知っていれば易しい。  
(b) 「未」が再読文字であることを踏まえる。
- (三) 「翁」は老人の尊称。「微」が難しいが、直後で「不得至今日」(今日に至るを得ず)と、昨年に羅慶同から薬をもらった母親が述べていることから意味を類推する。「微翁」は「翁微<sup>な</sup>かりせば」と読んで否定の仮定条件を表す。
- (四) 「薬を市ふを聞かば、質する所を問はん」と書き下す。後文で「金釧を去るを云はば、心当に悲忿すべし」(ブレスレットを与えたと言ったならば、母親はきっと憤慨するだろう)とあるから、「資する所」は薬と何を交換したのか、ということだと考える。
- (五) 布が羅慶同一族の将来にわたる繁栄を祈願したものであること、それが自分に対し薬を恵んでくれた上に薬代の未払いも不問に付してくれた羅慶同に対するお礼として贈られたものであることを指摘する。